

Weekly-Report

C X 週間展望（7月12日～）

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「7日発表の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（6月15～16日分）」が注目。～中略）。

雇用統計は強弱交錯で、独立記念日に伴

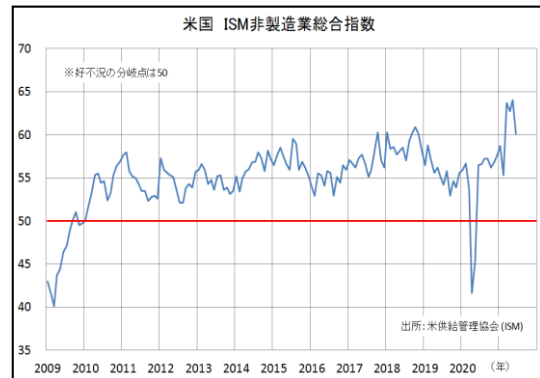
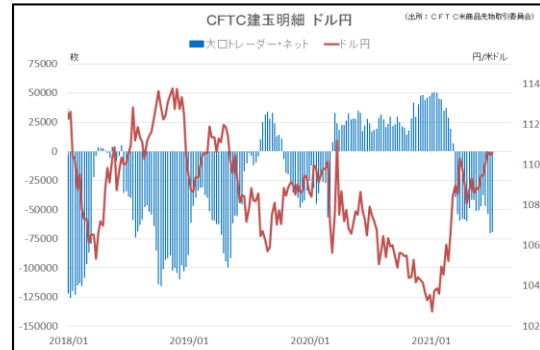
う休場前で、ドル円には利食いが入ったが、改善を示す米経済指標や要人発言などを背景に、再び底堅い動きを継続するのか？それとも、米金利頭打ち傾向にドル円が上値を抑えられるのか否かに注目したい。

また、ユーロ圏で新型コロナウイルスのデルタ株（変異種）の感染拡大が警戒され、相対的な米国との比較からユーロ売り・ドル買いが続いたが、ユーロは6月安値水準

でダブルボトムを形成中。底固めに移行するなら、ドル円の上値は限定的となる」としたが、米独立記念日休場明けには、米ISM非製造業景況感指数が60.1と5月（64.0）から低下し、市場予想（63.3程度）も下回ったことで、米政権の経済対策や経済正常化の効果が薄れ、米景気は4～6月期をピークに減速していくとの見方が改めて強まった。米長期金利は2月下旬以来の水準に低下し、円買い・ドル売りが優勢だった。

独鉱工業生産指数が市場予想に反して前月比で低下し、欧州景気の先行き不透明感からドル高・ユーロ安が進んだものの、FOMC議事要旨（6月開催分）を受けて、FRBによる早期の金融緩和縮小観測の後退で、米長期金利が4ヶ月半ぶりに1.30%を割り込み、日米金利差の縮小を見込む円買いも入り、ドル円の上値は限定的。

週間の米新規失業保険申請件数が37万3000件と前週から増え、市場予想（35万件）を上回った。米景気の回復鈍化懸念や金融緩和の長期化観測につながり、米長期金利が続落し、ドル円も下値を試す流れとなった。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

C X 週間展望 (7月12日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、反発。米株式相場が大幅高。米長期金利の上昇で日米金利差の拡大を見込む円売りも誘った。

もっとも、リスク選好の局面で流動性の高いドルは円と同様に売られ、ユーロやオーストラリアドルなどに対してドルが下落し、対円でのドル売りに波及。ドル円の上値も限定的となった。

ユーロは対ドルで続伸し、前日比0.0035ドル高い1ユーロ=1.1875~85ドルで終えた。米株高を受け、ユーロ買い・ドル売りが広がった。

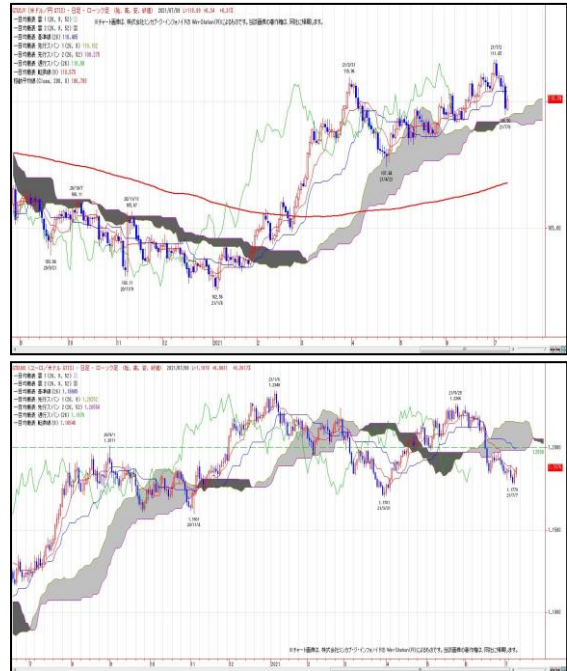
CFTC建玉明細(7/6現在)は、69,136枚の売り越し。前週(69,895枚の売り越し)から縮小。

【今週見通し・戦略】

米国債利回りが下落しており、ドル円の上値が抑えられている。米経済指標が事前予想を下回り、前回から下振れするケースが目立ち、景気回復の動きが頭打ちになるとの警戒感が広がりつつある。また、インフレについては、FRBの主張通りに一時的な上昇というシナリオが強まりつつある状況が、

米長期金利の低下傾向の一因。今週は、米CPIが予定されている。前年比で4.9%、コア指数は4.0%が見込まれているが、インフレ上昇は一時的との見方に傾きつつある中、強い数字にどの程度の反応を示すかは不透明。

ユーロドルが1.17水準で底打ち感を見せており、1.2000水準を回復できるか否かにも注目。16日の日銀金融政策決定会合は、金融政策に特に変更はないとみられ、市場への影響は限定的となりそうだ。



Weekly-Report



C X 週間展望（7月12日～）

調査課 菊川 弘之

金標準先物(7/9 清算値:6,367円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで「6月の金相場は、「米国」（FOMC）要因と「中国」（商品高抑制策）要因のダブルパンチを受けて、大幅安となった。

ただし、金価格は3月安値から6月高値までの上昇に対する61.8%押しを達成し、RSIも短期的な売られ過ぎ感を示しており、下げ一服となっている。

～中略）。現段階で、インフレが加速するか否かは不透明であり、2021年3月安値の攻防を見極めながら、短期トレードは別にして、中長期スタンスからは、買い場探しに優位性があると考える。

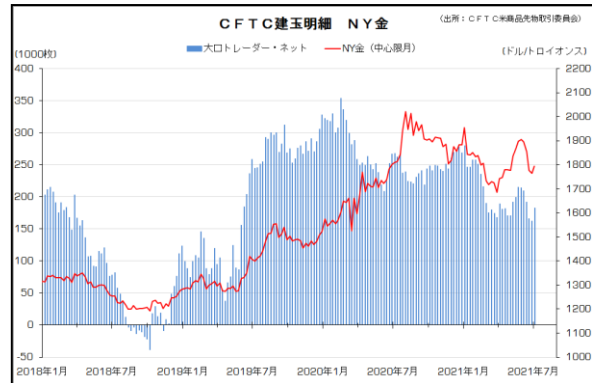
短期的には、内外共にダブルボトムを形成中で、ネックライン（1800ドル水準・6400円水準）の攻防が底打ちか否かの焦点となりそう」としたが、先週のNY金（8月限）は、独立記念日休場明けの6日、独鉱工業受注指数や独ZEW景気期待指数に加え、米ISM非製造業総合指数が低下したことを受けて米国債の利回りが低下、6月17日以来の高値1815.7ドルを付けた。

その後は、景気の先行き懸念から株安に振れると、リスク回避のドル高となり、上値を抑えられる場面もあったが、FOMC議事録では、米景気回復の「さらなる著しい進展」について、進展は継続する見通しではあるものの、おおむね「まだ達成されていない」との見方が示され、米債券市場で長期金利が低下し、ドル安・金高となった。円建て金に続き、NY金もダブルボトム完成となった。

【週末のNY市場】

週末のNY金（8月限）は、反発した。1800ドル割れの押し目を買われて堅調となった。金利下落は反発したもののリスク回避の動きが一服、株高やドル安を受けて堅調となった。時間外取引の高値を突破すると、テクニカル要因の買いが入って上値を伸ばし、1813.0ドルまで上昇した。

CFTC建玉明細（7/6 現在）は、182,821枚の買い越し。前週（162,226枚の買い越し）から拡大。



Weekly-Report

C X 週間展望 (7月12日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

金標準先物(7/9 清算値:6,367円)(2)

【今週見通し・戦略】

「米国」(FOMC)要因と「中国」(商品高抑制策)要因のダブルパンチを受けて、大幅安となった金相場は落ち着きを取り戻してきた。

先週は「日本、緊急事態、五輪無観客」のヘッドラインにプログラム売買が、日本株売り・米国債買いで反応、結果的に1.2%台半ばまでの米長期金利続落に伴う金買いを誘発した。

日足では、内外共にネックライン(NY金:1800ドル水準、OSE金:6400円水準)を上抜き、ダブルボトムを完成。

週足では、OSE金が52週移動平均線を週足終値ベースで上抜いているものの、NY金は同水準を回復できていない。市場間で強弱に温度差がある状況で、マザーマーケットであるNY市場が、明確に陽転してこない、東京市場も独歩高とはなり難い。両市場のダブルチェックでトレンド認識を行いたい。

一方、NY金の上値を抑えているユーロ安・ドル高は一服感。

既に米市場関係者の多くは実質夏休みモードに入っており、8月のジャクソンホールフォーラムまで様子見ムードで、東京オリンピック(テロ・サイバー攻撃)や、変異ウイルス「デルタ型」の行方を見極めようとする動きとなる可能性も。



Weekly-Report



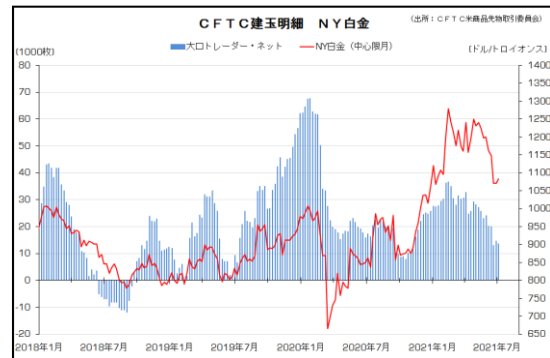
C X 週間展望（7月12日～）

調査課 菊川 弘之

白金先物(7/9 清算値:3,781円)

【前週レビュー】

先週レポートで「南アフリカのラマポーザ大統領は27日、インド型変異ウイルスと呼ばれるデルタ株の感染拡大を受け、新型コロナウイルスの警戒レベルを上から2番目の「レベル4」に1段階引き上げ、制限措置を強化した。期間は28日から2週間。



金の生産が世界各国に分散しているのに対して、白金生産は南アフリカに一極集中している。昨年からのコロナ感染拡大による供給障害懸念から、価格は上昇圧力を受けている。JM（ジョンソン・マッセイ）白金族需給調査報告書では、南アのプラチナ供給は40%近くの急回復を示す見通しだったが、コロナ変異株感染拡大が続くなら、需給見通しに見直しが入る可能性もあろう」としたが、先週のNY白金（7月限）は、金堅調につれ高となり、6月17日以来の高値1118.0ドルを付けたが、6月の米ISM非製造業総合指数が2月以来の水準に鈍化したことなどを嫌気して、上値が抑えられた。ただFOMC議事録発表後は、米国債の利回り低下を受けたドル安・金高で、下げ一服となった。金がダブルボトムを付けたのに対して、白金はネックラインで上値が抑えられている。

週末のNY白金（10月限）は、反発。株高やドル安を受けて堅調となった。戻りを売られる場面も見られたが、序盤の高値を突破すると、テクニカル要因の買いが入って上値を伸ばし、1099.0ドルまで上昇。リスク回避の動きが一服、株式市場が高値を更新したことや、ドル安に振れたことが支援要因になった。

CFTC建玉明細（7/6 現在）は、13,576枚の買い越し。前週（14,744枚の買い越し）から縮小。

【今週見通し・戦略】

東京市場は三角保合い放れ待ち。上放れた場合は、N=4073円、V=4241円、E=4337円が上値目標。一方、下放れた場合、V=3456円、E=3449円が下値目標。

Weekly-Report



C X 週間展望 (7月12日～)

調査課 菊川 弘之

ゴムRSS3(7/9 清算値:216.4円)

【先週レビュー】

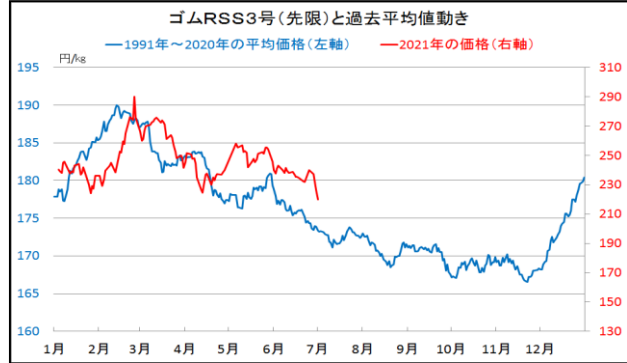
先週レポートで「国内市場は、下落局面で先限に売りが集まり、逆鞘に転換。ただし、期近限月は産地比「上鞘」水準で上値は限定的か。先限つなぎ足は、三尊天井形成中。6月程ではないが、7月も月間騰落傾向は、売り方有利の時間帯。

2020年4月安値～2021年2月高値までの上昇に対する半値押し達成。61.8%押しは、197.6円。

要注意は、タイマレーシアなどの産地でコロナ感染再拡大の動き。変異株感染拡大により、ゴム農園の従業員が十分に確保できない状況

となっている模様」としたが、先週のRSS3号は週初こそ、自律反発が入ったものの、戻りは売られ、年初来安値を更新した。

東京オリンピック無観客開催との報道を嫌気した日本株下落もあり、リスクオフムードが高まった。ドル円が米金利低下の影響により109円台後半へ円高ドル安が進行したことも一因。



【今週見通し・戦略】

中国国務院は7日、預金準備率の引き下げ検討していることを発表。5月の中国生産者物価(PPI)は、前年同月比8.8%の上昇となった。景気減速と物価上昇が同時に発生する、いわゆるスタグフレーションに似た動きとなっていることに歯止めがかけられるか否かが焦点。

国内の期近限月は産地対比で「割高」で、当先の鞘は同鞘化。投資主体別売買動向をみると、海外投資家の売りが目立っており、日本売りの流れの中で、薄商いの中、海外勢の玉次第で乱高下の可能性も。

Weekly-Report



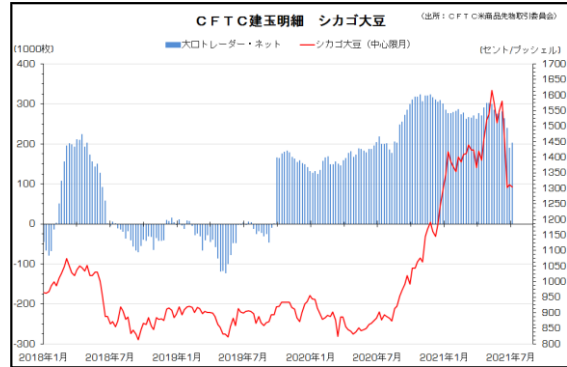
C X 週間展望（7月12日～）

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(7/9 清算値:56,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで「8月の天候次第では、上値リスクが残る。安値売込みは避けたい時間帯」としたが、先週のシカゴ大豆（11月限）は、独立記念日3連休に米産地で降雨が発生したことに加え、週を通して雨がちになるとの予想が発表され、作柄悪化に対する警戒感が後退。下落して始まったが、米農務省（USDA）作柄報告において、「良」以上の割合が引き下げられて59%とされたことでイールド低下と、これに伴う需給引き締め懸念が強まり買い優勢に転じた。これまでの急落で値ごろ感が強まっていたことも買い戻しの一因。



週末のシカゴ大豆（11月限）は、反発。米産地での降雨が重石となったが、作柄悪化に伴う生産量の下方修正観測が材料視された。米農務省がデイリーで大口成約を報告したことや、カナダの土壌水分不足を背景とした大豆油高も一因。

CFTC建玉明細（7/6 現在）は、139,264枚の買い越し。前週（134,011枚の買い越し）から拡大。

【週間純輸出制約高（6月24日までの一週間）】

176万2900トン（事前予想レンジ：10万～97万5000トン）

【週間作物進捗報告（7月4日までの週）】

開 花：29%（前週14%、前年29%、平年24%）

着さや：3%（前週—、前年2%、平年3%）

「良」以上：59%（前週60% 前年71%）

「劣」以下：11%（前週9% 前年5%）

【今週の見通し・戦略】

18州平均の「良」以上の比率が、19/20年度以来の低い水準。この年度の最終的な単収は47.2Bu。6月需給報告では21/22年度のイールドは50.8Buに想定されているが、イールド引き下げらの可能性。

Weekly-Report

C X 週間展望（7月12日～）

日産証券

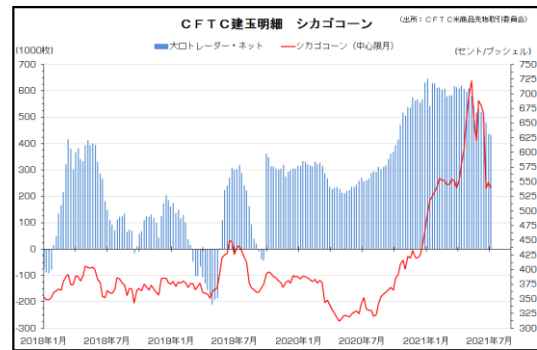
調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(7/9 清算値:33,620円)

【先週レビュー】

先週レポートで《アイオワ、ミネソタ州の作柄状態に注目。全米四半期在庫は同時期としては2014年以来の低在庫。～中略）。7月は年間で最も変動率が高まる時期だが、月間の陽線確率は低いことには注意》としたが、先週のシカゴは、独立記念日休場明け、乾燥や作柄の低下が懸念されているアイオワ州を含む米産地で降雨が発生したうへ、週を通して雨がちな天気が続くとの予報が発表されたことを受けて、ストップ安で始まった。

その後、作柄報告において「良」以上の比率が、前週からの引き下げが懸念されながらも前週と同率の64%に据え置かれたことが弱材料となり続落。



週末のシカゴコーン（12月限）は、は続落。米産地で引き続き降雨が発生していることに加え、気温が低下していることで作柄改善見通しが強まったことが弱材料となった。また、12日に農務省需給報告を控えた玉整理売りも一因。

CFTC建玉明細（7/6 現在）は、326,814枚の買い越し。前週（352,967枚の買い越し）から縮小。

【週間純輸出制約高（6月24日までの一週間）】

8万2600トン（事前予想レンジ：27.5万～90万トン）

【週間作物進捗報告（7月4日までの週）】

シルキング率：10%（前週 4% 前年9% 平年14%）

「良」以上：64%（前週 64% 前年71%）

「劣」以下：9%（前週 8% 前年 6%）

【今週の見通し・戦略】

調整含みの動きとなっているが、農務省需給報告では作柄悪化が続いたことで21/22年度の単収は下方修正されると見られる。7月相場らしいボラティルな動きが想定される。

Weekly-Report



C X 週間展望（7月12日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

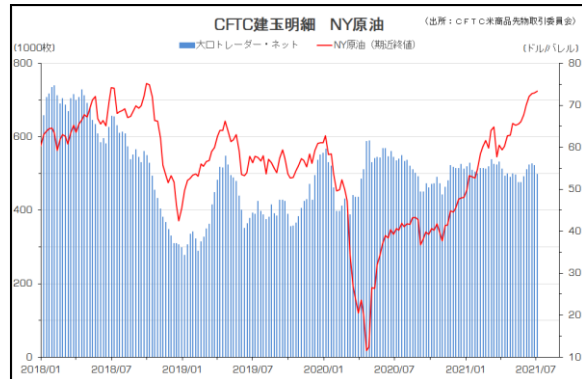
先週レポートで「米マクロ経済指標の多くの改善が見込まれている中、原油と相関の高いNYダウの7月・月間騰落傾向は強気の時間帯。季節的には米ドライブシーズン・ハリケーンシーズンで、安値売り込みは避けたい時間帯。価格上昇にも関わらず、シェールの増産ペースも遅い。米国勢調査局が2日発表した統計によると、5月の米原油輸出量は日量271万バレルと、前月の324万バレルから減少。」

2015年のイラン制裁解除時も、イランがフル生産に戻るまでには1年ほどの時間が掛かっている。

原油市場は短期的な買われ過ぎ感に対する調整は入っても、押し目は買われやすいか？」としたが、先週のNY原油（8月限）は、3連休明け、「OPECプラス」が協調減産を巡る交渉で決裂し、供給不安から一時76.98ドルと6年半ぶりの高値を付けたが、産油国はいずれ減産幅の縮小で合意するとの見方が次第に広がり、利益確定売りが優勢となった。市場では今回のOPECプラスの会合で8月以降の一段の減産幅縮小を決めるとみられていたが、アラブ首長国連邦（UAE）が協調減産を来年末まで続けるサウジ・ロシア案（当初予定は、来年4月）に反対したため合意に至らなかった。

米政府がOPECプラスの協議を注視しているとし、対立しているサウジアラビアやUAEの当局者とハイレベルな対話を行ったと発表したことが行き詰まりからの打開を連想させた。来年4月までとされている協調減産について来年末まで延長する案をサウジアラビアやロシアが提案しUAEが反対しているが、第3者の介入によって行き詰まりが解消される可能性が意識された。

来年末までの協調減産の継続に反対し、協議決裂の要因となったアラブ首長国連邦が、増産に動くとの警戒もくすぶるなかで、想定以上の増産で決着するのか、あるいは限定的な増産となるのか見通せないことから続落。先週からの混乱を嫌気して、いったん買い玉の利益を確定する市場参加者も多かった。



Weekly-Report

C X 週間展望 (7月12日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油(8月限)は、続伸した。石油輸出国機構(OPEC)プラスの協議中止で不透明感が残るものの、米エネルギー情報局(EIA)の週報で在庫が減少したことや、リスク回避の動きが一服、株高・ドル安に振れたことで買い優勢となった。



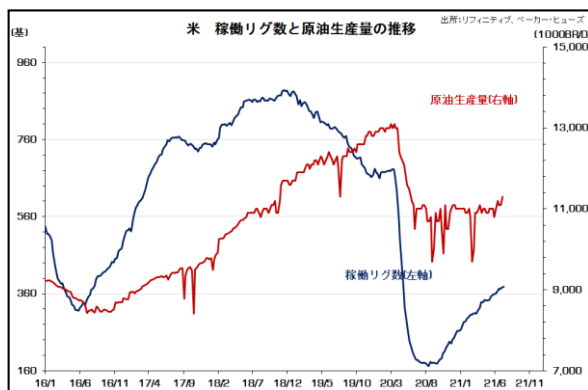
中国人民銀行が預金準備率の引き下げを発表した。株式市場に安値拾いの買いが入り主要指数が最高値を更新、リスク回避の動きが一服しドル安に振れた、景気回復期待から原油も買われて堅調となった。

米石油サービス会社のベーカー・ヒューズが9日発表した米国の原油採掘設備(リグ)の稼働数は前週から4基増えた。堅調な原油相場にもかかわらずリグの増加が小幅にとどまった事も一因。

CFTC建玉明細(7/6現在)は、497,351枚の買い越し。前週(522,490枚の買い越し)から縮小。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが9日公表した統計によると、同日までの1週間の国内石油の掘削リグ稼働数は前週比2基増の378基。



国内天然ガス掘削リグの稼働数は前週から2基増の101基。シェールオイル・ガスの採掘に使用される水平リグの稼働数は、前週から4基増の433基。

Weekly-Report



C X 週間展望 (7月12日~)

調査課 菊川 弘之

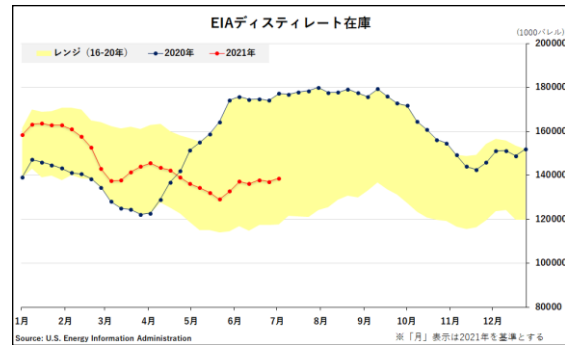
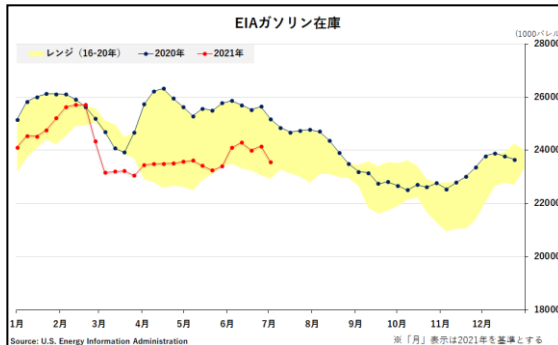
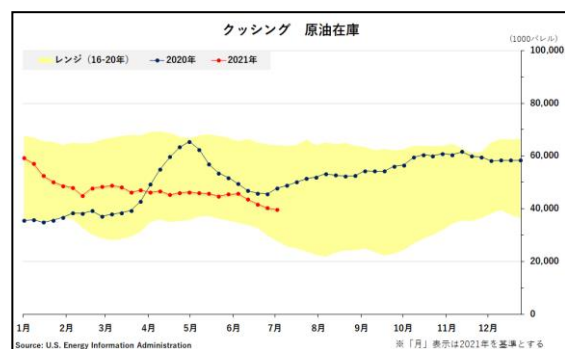
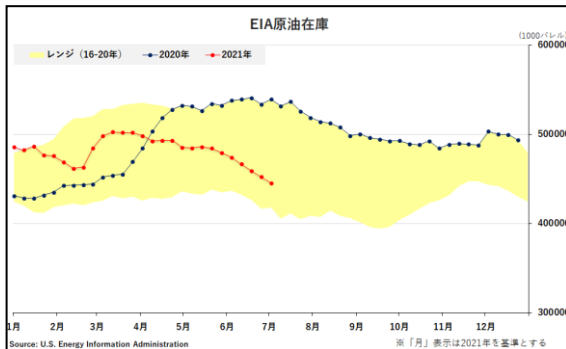
東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油 4億4548万バレル
 クッシング 3965万バレル
 ガソリン 2億3550万バレル
 留出油 1億3869万バレル

686万6000バレル減少
 61万4000バレル減少
 607万5000バレル減少
 161万6000バレル増加



【石油連盟週報】

石油連盟週報(6月27日~7月3日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比6.2%減の216万5951キロリットル。灯油在庫は0.8%増の177万5791キロリットル。週間原油処理量は4.6%増の236万7104キロリットル。

推定出荷量は、ガソリンが16.8%増の86万1900キロリットル、灯油が19.7%増の7万7689キロリットル。

Weekly-Report



C X 週間展望（7月12日～）

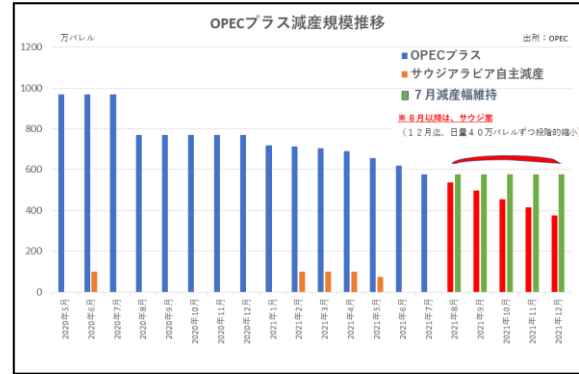
調査課 菊川 弘之

東京原油(4)

【原油相場見通し】

「OPECプラス」は、5日に再開を予定していた閣僚級会合を中止した。アラブ首長国連邦（UAE）が協調減産の8ヶ月延長案を拒否したため。

今月の（減産縮小幅）増産については4月に合意済みだが、コロナ後の需要回復が加速する見通しの中、サウジ・ロシア案（月、日量40万バレル。5ヶ月で日量200万バレルの増産）でも需給タイト感が続くと見られており、8月以降の増産見送りとなると需給ひっ迫が意識される。UAEは、自国の減産率が高いのが公平性を欠くと主張。提案通りであれば、UAEの減産率は18%となり、サウジの減産率は5%、ロシアは逆に5%の増産となる。



イランと米国の核合意復帰への協議も難航しており、原油と関連の高いNYダウの7月・月間騰落傾向は強気の時間帯。季節的には米ドライブシーズン・ハリケーンシーズンで、安値売り込みは避けたい時間帯。米エネルギー情報局（EIA）週報で原油在庫が7週連続の減少。需要が回復傾向を見せる中、「OPECプラス」と、米シェールオイル生産会社が生産を抑制しているため。EIA原油在庫は、新型コロナウイルス発生前の過去5年（2015～19年）平均を1%、クッシング原油在庫減少は、過去5年（16～20年）平均を21%下回っている。2015年のイラン制裁解除時も、イランがフル生産に戻るまでには1年ほどの時間が掛かっている。

長期計画のインフラ投資法案財源確保に、バイデン米大統領は法人税増税を求めたが、大企業の圧力で見送られ、戦略的石油備蓄（SPR）放出で財源を確保することになった。SPRを約8200万バレル売却予定。最終的には、米戦略備蓄の追加放出などで価格は冷まされる可能性はあるが、現段階では単なる値頃感を持たないようにしたい。一方、協調減産の期限である22年4月に向けて、減産破りの動きや、インフレ懸念の高まりによる株価急落等が出てくると、原油急落リスクも潜在する。8月までには、まだ日時があり、最終的にはOPECプラス内での合意がまとまるというのが、現段階での市場コンセンサス。

Weekly-Report



C X 週間展望 (7月12日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (7/5~7/11)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定
7月12日(月)	8:50	日本	6月	企業物価指数 (前月比)
	8:50	日本	5月	機械受注 船舶・電力除く民需 (前月比)
		中国	6月	社会融資総量
		中国	6月	マネーサプライ M2 (前年比)
		中国	6月	人民元建て新規融資
		中国	6月	人民元建て融資残高 (前年比)
7月13日(火)	1:00	米国	---	USDA需給報告
	15:00	ドイツ	6月	消費者物価指数 (CPI) 改定値 (前月比)
	15:00	ドイツ	6月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 改定値 (前月比)
	21:30	米国	6月	コア消費者物価指数 (CPI) (前年比) 原数値
	21:30	米国	6月	消費者物価指数 (CPI) (前月比) 季調値
	18:00	---	---	IEA月報
		中国	6月	輸出 (前年比)
		中国	6月	輸入 (前年比)
		中国	6月	貿易収支 (USD)
7月14日(水)	18:00	ユーロ圏	5月	鉱工業生産 (前月比)
	21:30	米国	6月	生産者物価指数 (PPI) 最終需要 (前年比)
	21:30	米国	6月	生産者物価指数 (PPI) 食品・エネルギー除く (前年比)
	納会	米国	---	シカゴコーン2021年7月限納会
	納会	米国	---	シカゴ大豆2021年7月限納会
7月15日(木)	11:00	中国	6月	固定資産投資 (前年比)
	11:00	中国	6月	鉱工業生産 (前年比)
	11:00	中国	6月	小売売上高 (前年比)
	11:00	中国	Q2	国内総生産 (GDP) (前年比)
	19:00	ユーロ圏	6月	準備資産総額
	21:30	米国	7月	NY 州製造業業況指数
	21:30	米国	6月	輸入物価 (前月比)
	21:30	米国	7月5日, 週次	新規失業保険申請件数
	21:30	米国	6月28日, 週次	継続失業保険受給総数
	21:30	米国	7月	フィラデルフィア連銀 業況指数
	22:15	米国	6月	鉱工業生産 (前月比)
	22:15	米国	6月	設備稼働率 季調値
	---	---	---	OPEC月報
		米国	前週分	CFTC建玉明細
7月16日(金)	2:00	米国	6月	NOPA-大豆クラッシュ
	18:00	ユーロ圏	6月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 改定値 (前月比)
	18:00	ユーロ圏	6月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) (食品・エネルギー・酒・タバコ除) 改定値 (前月比)
	21:30	米国	6月	小売売上高 (前月比)
	21:30	米国	6月	小売売上高 自動車除く (前月比)
	21:30	米国	6月	小売業販売高
	23:00	米国	5月	企業在庫 (前月比)
	23:00	米国	7月	ミシガン大 消費者信頼感指数 速報値
		日本	7月16日	日銀政策金利決定
7月17日(土)				
7月18日(日)				

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

Weekly-Report

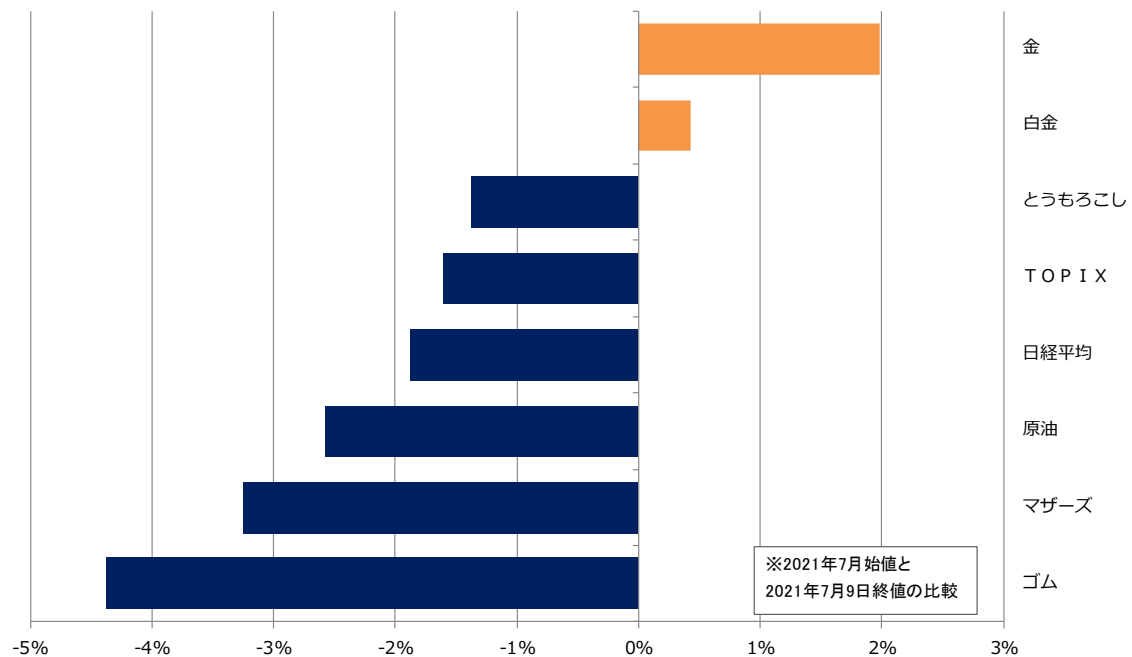


C X 週間展望（7月12日～）

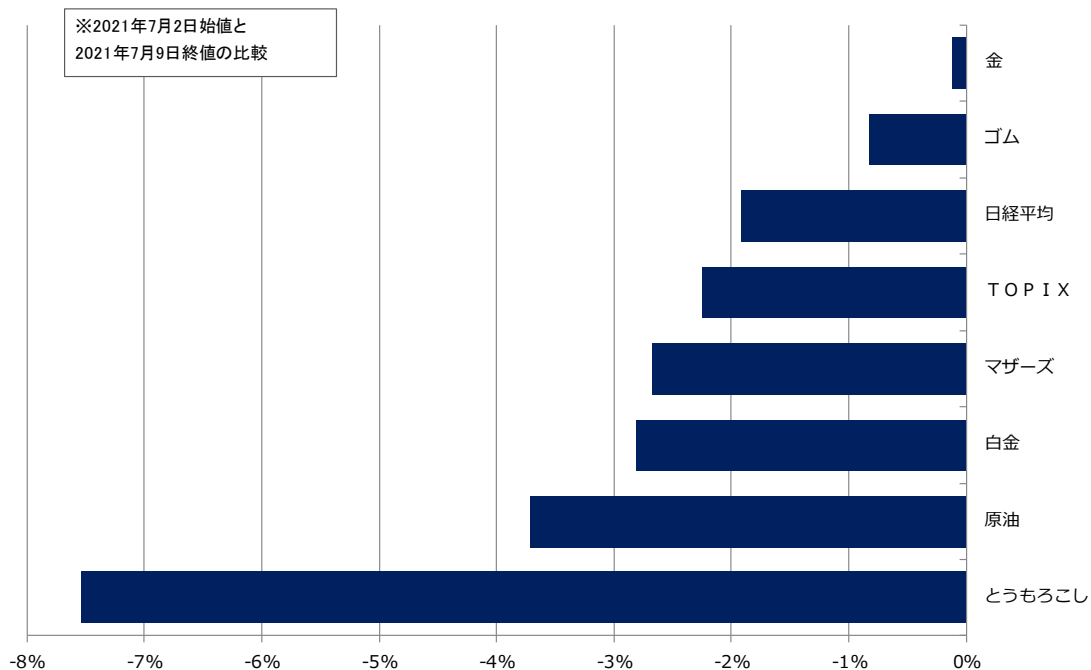
調査課 菊川 弘之

【騰落率（月間・週間）】

月間騰落率



週間騰落率



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。